

第五章

結論

A. 結論

本研究の結論は次のようである。

1. 実験クラスとコントロールクラスのプリテスト成果の平均が同様ため、実験クラスとコントロールクラスのプリテスト成果の間に有意差がないということが分かる。
2. コントロールクラスのポストテスト成果はプリテストよりよいということであるため、コントロールクラスのポストテスト成果とプリテスト成果の間に有意差があるということが分かる。
3. 実験クラスのポストテスト成果はプリテストよりよいということであるため、実験クラスのポストテスト成果とプリテスト成果の間に有意差があるということが分かる。
4. 実験クラスのポストテスト成果の平均はコントロールクラスのポストテスト成果の平均よりよいであるため、実験クラスのポストテスト成果とコントロールクラスのポストテスト成果の間に有意差があるということが分かる。
5. データ分析の結果に基づいて、実験クラスのポストテスト成果とコントロールクラスのポストテスト成果の間に有意差があるとい

うこたであるため、バンドン第二国立高等学校の初級日本語の学習者としての作文能力が上がるのために、STAD 法が効果であることが分かる。

B. 今後の課題

日本語を理解するのは難しいと感じている学習者が大勢おる。作文の能力の上がるために STAD 法はひとつの方法として使用することができる。この方法は他の方法とコラボレーションとしたら、例えば、直接方法とコラボレーションとしたら、学習の目標を満たすことができると考えられる。

本方法を使用する学習活動であまり活動しない学生がおる可能性があるため、教師の役割が最も重要である。面白い教授法によって、学習者の動機を上がりつつ、学習活動で積極的に活動すると考えられる。

時間が無駄にしないように、教師が作文学習の向きに、状況と環境を設定することが必要だと考えられる。

他外国語学習にこの方法を使用してみると提案して、時間をもっと増やして、他の方法とコラボレーションとしたらいいと提案する。